

## 2008年6月2日に、中村哲医師が遺愛で講演をなさっていました。

当時の遺愛「自習室便り」をみると、この12月4日（水）にアフガニスタンで亡くなった中村哲医師が、遺愛アリーナで講演していたことが書かれていました。（「自習室便り」は私が教頭・副校長をしていた6年間発行していたもので、2009年から「校長室便り」になりました。）

昨日の午後、中村哲先生の講演会が遺愛でありました。熱心に聞いて下さり、熱い拍手をおくって下さった皆さんにくれぐれもよろしくお伝え下さいとのことでした。

印象はいかがでしたか？…見た目はパワフルでも何でもなく小柄で、訥々（とつとつ）とした語り口で、どこに戦乱のアフガニスタンで25年間も頑張れる力があるのだろうと不思議に思った人もいるかもしれません。

講演後、中村先生に「やめたくなったこと、嫌になったことはありますか？」と尋ねたところ、「何度もあります。」とのこと。「どのようなときに感じました？」とさらに踏み込んで聞きましたら、「井戸を掘りあてた後、その井戸の奪い合いを村同士でしているのを見て、嫌気がさしたことがありました…でも、ちょっとの間だけです。」と語っていました。本当に粘り強い方だなという印象でした。どんなことでも1つのことを成し遂げるには忍耐、粘りが必要なのだなと改めて感じさせました。見た目や一時的な派手なパフォーマンスではなく、地味な日々の取り組みが大切なのですね。

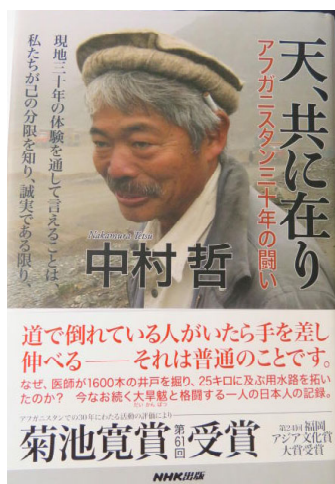
中村先生の活動は、日本の一般の市民からの寄付・献金で成り立っています。そのお金はほとんどがきちんと援助にあてられます。（国際援助団体のなかには、援助ではなく、組織の維持のために寄付の80%以上が費やされてしまうところもあるそうです。）志のある皆さんは、お小遣いのなかから、中村先生を支える「ペシャワールの会」にぜひ寄付・献金をしていただければと思います。

2008年6月3日

中村哲著『天、共に在り』（NHK出版）の終章に…「信頼」は一朝にして

築かれるものではない。利害を超え、忍耐を重ね、裏切られても裏切り返さない誠実さこそが、人々の心に触れる。それは、武力以上に強固な安全を提供してくれ、人々を動かすことができる。私たちにとって、平和とは理念ではなく現実の力なのだ…という言葉がありました。「利害を超え、忍耐を重ね、裏切られても裏切り返さない誠実さこそが、人々の心に触れる。」という中村さんの信念を私たちも継承していきたいと思えます。

2008年の講演後から毎年遺愛ではクリスマス礼拝で捧げられた献金の一部をペシャワール会に送っていますし、今年も送る予定です。



2019年12月9日（月）